

JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



3面

「いしかわのお米
“ありがとう”
キャンペーン」開催
(石川県本部)

6-7面

ニッポンエールプロジェクト
第4弾「沖縄県産黒糖」
(営業開発部)

配送先変更(住所・宛名)、
配布部数変更はこちら



News!



折原会長と秋元真夏さんが対談

「JAタウン」産地の思い、YouTube「ゆるふわたいむ」でも伝えたい

フードマーケット事業部

対談を行った全農の折原会長
(左)と秋元さん



対談では、折原会長から秋元さんへ「全国各地を訪れ、積極的に情報発信してほしい」と期待の言葉が送られました。秋元さんは「生産者や直売所の方々の思いを伺うことは大変貴重。感謝の気持ちが一層強くなりましたし、YouTube番組『ゆるふわたいむ』を通じて視聴者の

全農は、運営する産地直送通販サイト「JAタウン」の産地紹介の一環として、折原敬一経営管理委員会会長とJAタウンオフィシャルサポーターでタレントの秋元真夏さんとの対談を実施し、8月上旬にYouTubeで公開しました。

皆さんにもこの思いを伝えることが使命と思っています」とこれまでの活動を振り返りました。

折原会長は、元気が出る食材として、地元食材を使った朝食を挙げ「しっかり食べるのが基本。好き嫌いはなく何でもおいしくいただいています」と話し、秋元さんは「朝ごはんを食べて力をつけます」と笑顔で答えました。

また、折原会長の地元の特産品「尾花沢すいか」を試食した秋元さんは「甘くてシャリとした食感がいい」と話し、折原会長は「生産者の努力の賜物。ぜひ家族と一緒に食べてほしい」と語りました。

YouTube番組
「ゆるふわたいむ」



JAタウン



News!



親子を招いて「お米の学習会」

生協と合同で食育活動、もみすり体験、井づくりも

徳島県本部



もみすりを体験する参加者

学習会では、県本部米穀総合課の職員が、県南部の海部郡美波町で栽培されている特別栽培米「乙姫米」※を紹介し、精米を行うパールライス工場での製造工程について説明しました。

徳島県本部はJAや関係機関と連携し、食育活動に取り組んでいます。活動の一環として8月21日、とくしま生協と合同で「お米の学習会」を開催し、親子15人が参加しました。



学習会の参加者

参加者は、もみすり体験を行い、炊きたての米と徳島県産の釜揚げちりめんを使用し、井を調理しました。参加した小学生の姉妹は「もみすりが大変だったけど楽しかった」「自分で作った井がおいしかった」と話しました。

今後徳島県本部は「食への関心につながる「楽しい食育活動」を継続していきます。

※「乙姫米」：海部郡美波町日和佐地区で栽培されている特別栽培米。日和佐地区では1989年から「有機米づくりの里」を目指して栽培に取り組んでおり、安全・安心な地域のブランド米として地域全体で環境保全型農業を続けています。



「いしかわのお米“ありがとう”キャンペーン」開催

応援してくれた・食べてくれた皆さまに感謝

石川県本部

石川県産米の収穫風景



「令和6年能登半島地震」により、県内では奥能登地域を中心に農業にも大きな被害が出ましたが、生産者の努力と、全国の方々からの支援によって、奥能登地域では前年の6割程度まで水稻を作付けすることができました。しかし、今回の奥能登豪雨により、今後収穫が不透明な地区もあります。

そのような中ですが、「能登はやさしや土までも」という能登の風土を表す言葉

石川県本部では、「いしかわのお米」を食べてくれた方へ感謝の気持ちを込めて、石川県のブランド牛「能登牛」や石川県産のおいしい味覚セットなどが当たる新米キャンペーンを実施しています。



能登応援マーク

キャンペーン詳細はこちら



があるように、被害のあった地域では、住民が全国からの支援に「ありがとう」と感謝を伝える看板やのぼりを掲出しています。

そのような思いを形にするべく、応援してくれた・食べてくれた方々へ向けてキャンペーンを企画。キャンペーンの景品は、能登応援コース・石川の美味しいもの詰め合わせコースの抽選に外れた方でも、さらに抽選で輪島塗夫婦箸めおとばしをプレゼントするWチャンスもあります。キャンペーンを通じて、新米の収穫を喜ぶとともに、感謝の思いを伝えます。



「応援米」販売のスーパー・フレスタと一緒に稲刈り体験会

稲刈りでサンフレッチェ広島を応援

広島県本部



稲刈り体験会の参加者

「応援米を知ってもらおう機会。多くの人に食べてもらい、チームにエールを送ってほしい」とお米を通じたチームへの応援を呼びかけました。

体験会には、フレスタで販売している「サンフレッチェ応援米」などの精米商品を購入し、応募した方の中から抽選で選ばれた親子31人が参加しました。

チームアンバサダーでサンフレッチェ広島の元選手である森崎浩司さんを迎え、農事組合法人「えーの」の「初めてだったけど、楽しかった。田植えや稲刈りを思い出しながら、おいしいお米を食べたい」と話しました。森崎さんも「応援米を知ってもらおう機会。多くの人に食べてもらい、チームにエールを送ってほしい」とお米を通じたチームへの応援を呼びかけました。

約10坪の田んぼで稲刈りを行いました。サンフレッチェ広島ユニホームやグッズを身に着けた参加者は、森崎さんと一緒に「サンフレッチェ応援米」の原料となる「あきさかり」を手刈りしました。

広島市からの参加者は「初めてだったけど、楽しかった。田植えや稲刈りを思い出しながら、おいしいお米を食べたい」と話しました。森崎さんも「応援米を知ってもらおう機会。多くの人に食べてもらい、チームにエールを送ってほしい」とお米を通じたチームへの応援を呼びかけました。

広島県本部と広島・岡山・山口県でスーパーマーケットを展開する(株)フレスタは、プロサッカーチームのサンフレッチェ広島をお米を通じて応援するため、9月7日に安芸高田市で稲刈り体験会を開催しました。

消費喚起へ「一球牛魂! 和牛ナイター」

北海道日本ハムファイターズ vs オリックス・バファローズ戦



日本ハムとともに和牛ナイターで和牛消費を呼びかけ

全農は9月6日、北海道北広島市のエスコンフィールドHOKKAIDOで行われたプロ野球の北海道日本ハムファイターズ対オリックス・バファローズ戦で、「JA全農×ニッポンハムプレゼンツ 一球牛魂! 和牛ナイター」を開催しました。【畜産総合対策部】



選手に農畜産物を贈呈する全農の桑田理事長(中央右)と日本ハムの木藤会長(中央左)

試合前に行われた記念品贈呈式では、全農の桑田義文代表理事理事長から米1俵、日本ハムの木藤哲大会長からは国産鶏肉「桜姫」を北海道日本ハムファイターズの選手へ贈呈し

全農は、7月9日に日本ハム(株)と包括的な事業連携を締結しており、同イベントは、全農の取り組み和牛消費喚起キャンペーンの一環として、日本ハムと合同で開催しました。イベントを通じて、厳しい状況が続く和牛の消費拡大に向けて、来場した約3万人のファンとメディアに対して「ちょっといい日に和牛をたべよう!」というメッセージを発信しました。

また、子どもたちにも和牛をはじめとした国産農畜産物の魅力を知ってもらうと、北海道江別市の子ども食堂を利用する子どもたち33人をイベントに招待し、和牛弁当を提供しました。子どもたちは、ファイターズを応援しながら和牛クイズなどのイベントにも参加し、和牛についての理解を深めました。

また、子どもたちにも和牛をはじめとした国産農畜産物の魅力を知ってもらうと、北海道江別市の子ども食堂を利用する子どもたち33人をイベントに招待し、和牛弁当を提供しました。子どもたちは、ファイターズを応援しながら和牛クイズなどのイベントにも参加し、和牛についての理解を深めました。

始球式は、全農グループのYouTubeチャンネルで配信している番組「キラリちゃん」のMCを務める雪平莉左さんが務めたほか、場内の大型ビジョンで全農オフィシャルアンバサダーを務める石川佳純さんからの和牛消費喚起メッセージの放映を行いました。ほかに、和牛理解醸成ブースの設置やオリジナル和牛シールの配布、クラブラウンジや球場社員食堂での和牛メニューの提供や「ちょっといい日に和牛をたべよう!」というメッセージを記載した和牛うちわの配布など、和牛づくしのイベントとなりました。



3



1



2



4

1. 大型ビジョンで石川さんからのメッセージを放映
2. こども食堂の利用者に和牛弁当を提供
3. 雪平さんによる始球式
4. 全農の齊藤専務(中)と MVP 賞の北海道日本ハムファイターズの柳川選手(左)とアリエル・マルティネス選手

試合は北海道日本ハムファイターズが3-2で勝利し、MVP賞として齊藤良樹代表理事専務が北海道産黒毛和牛サーロイン1頭分(30キ)を北海道日本ハムファイターズの柳川大晟選手(投手)とアリエル・マルティネス選手(捕手)に贈呈しました。全農は今後も和牛消費の拡大に向けた取り組みを進めます。



▲ 会場で配布した和牛うちわ

栗産地振興へ複合的に支援 剪定士が指導、園地の仲介も

岐阜県南東部の中津川市、恵那市を含むJAひがしみの管内は銘菓「栗きんとん」で知られ、県内の栗栽培面積の約半分を占めるなど、古くから栗の栽培が盛んです。

管内の栗生産者185戸で組織される東美濃栗振興



JA管内の中津川市で行われた全国クリ研究大会現地視察

協議会の10戸当たりの平均収量は、全国平均の約2倍の200kg。中でも、低樹高・超低樹高栽培による大玉で高品質な栗を出荷する超特選栗部会は、地元菓子店との契約出荷により安定経営を実現し、産地の維持・振興に大きな役割を果たしてきました。

栗剪定士105人を認定 レベルに応じて学習会

高齢化や後継者不足の課題に対してJA、同協議会、行政は2006年に「東美濃クリ産地地消(商)拡大プロジェクトチーム」を結成。10年には栗剪定士認定制度を創設し、これまで105人が認定を受けました。制度創設により、剪定作業に自信がな

い協議会会員の剪定技術の向上や、各地域の栗剪定士への作業受託による栗園の維持にもつながっています。

栗栽培に興味のある人に対しては、1日で栗農家の年間作業のイメージを学べる講習会を開催しています。本格的に栗農家を目指す人に対しては、年間6回のチャレンジ



栽培希望者に対する講習会も充実

JAひがしみの (岐阜県)



概要		2024年3月31日現在
正組合員数		1万8860人
准組合員数		1万4054人
職員数	309人(常雇員含め523人)	
販売品取扱高		52億5603万円
購買品取扱高		58億4145万円
貯金残高		2512億2891万円
長期共済保有高		5030億5229万円
主な農産物	米、飛騨牛、夏秋トマト、夏秋ナス、牛乳、タケノコ、栗、こんにゃく芋、スイートコーン、ジネンジョ、黒豆、イチゴ、菌床シイタケ、ブロッコリー、西方いも ほか	

塾で実践的な学びの場を提供しています。さらに栽培希望者に対して、担い手のいない栗園を仲介する「園地流動化」の取り組みも行っています。

VRでも剪定技術を学習 オープンチャットで相談

JA、同協議会、県の恵那農林事務所は、栽培技術をVR(仮想現実機器)やタブレットで学習できるシステムを共同開発し、協議会会員に無料で提供しています。また、同協議会の青壮年部では、栗について気軽に相談できるLINEのオープンチャットを運営しており、栗の



ブランド化に取り組む「ぼろたん」

木の画像をアップして剪定について意見を求めたり、害虫の発生状況を共有し、経験の浅い生産者に防除を呼びかけたりするなど活用されています。

こうした取り組みに加えて、契約出荷栗の単価交渉や渋皮がぼろっとむける品種「ぼろたん」のブランド化販売にも力を入れ、農業者の所得増大に向け取り組んでいます。

ニッポンエールプロジェクト協議会

第4弾「沖縄県産黒糖」

〜離島が育む自然なおいしさをお届け〜

全農は「ニッポンエールプロジェクト協議会」の第4弾のテーマを「沖縄県産黒糖」とし、協議会の参画メーカーとともに商品を開発・販売しています。今回、プロジェクトに参画するメーカーは(株)伊藤園、久米仙酒造(株)、(株)不二家、山崎製パン(株)、全国農協食品(株)、協同乳業(株)の6社です。【営業開発部】

「ニッポンエールプロジェクト」は、全農とメーカー、販売先が協力して国産農畜産物のPRやキャンペーンを展開し、商品を通じて産地を応援する活動です。

「ニッポンエールプロジェクト協議会」は、国産農畜産物の消費拡大や生産振興、フードロスの削減などに関わる企業が同じテーマで商品を開発・販売し、共同でPRやキャンペーンを展開することで産地

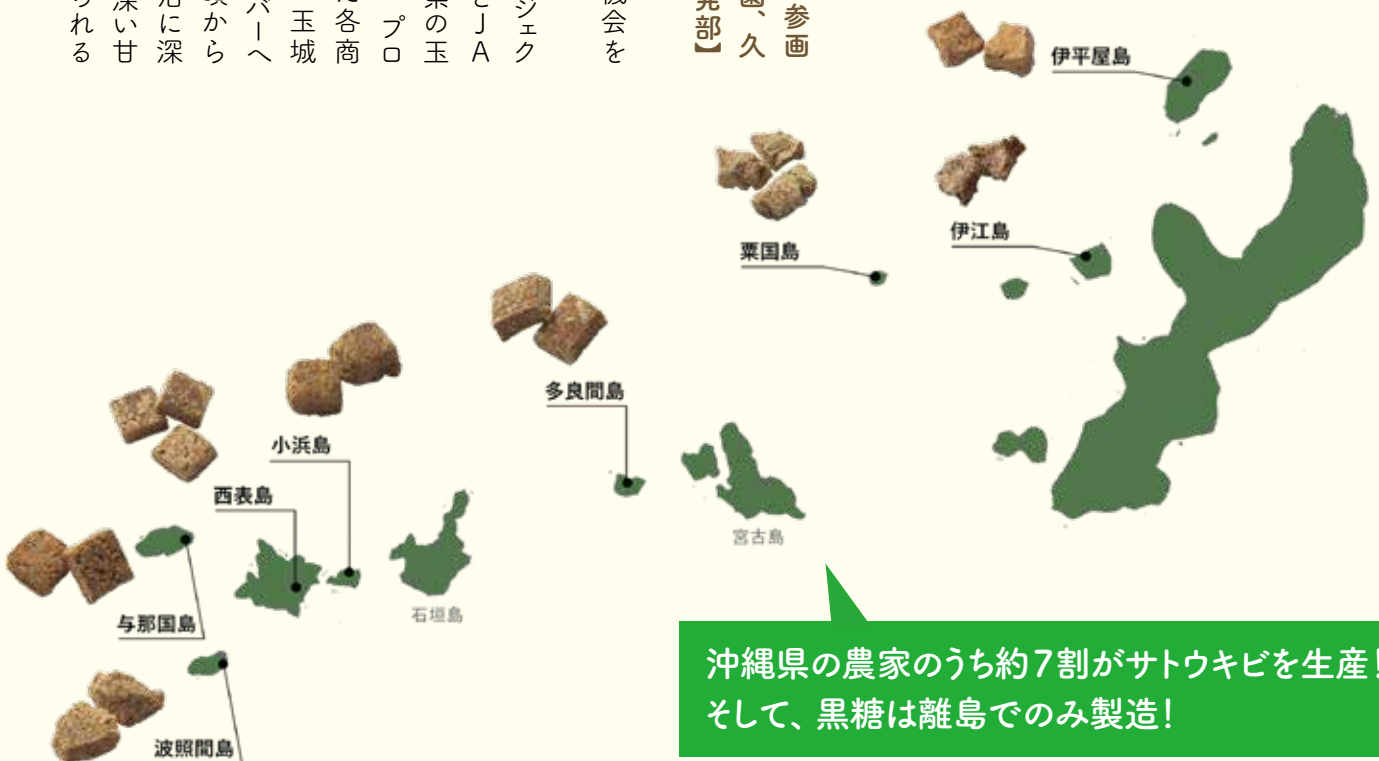
を応援しています。

同プロジェクト第4弾のテーマは、「沖縄県産黒糖」。沖縄の離島でつくられる黒糖は400年の歴史があり、離島の地域産業として島の人々の暮らしを守っています。

全農は、各メーカーとともに沖縄県産黒糖を使用した商品を共同開発し、販売先と協力しながら販売・PRすることで、離島の農家が丹精込めてつくった黒糖を、より多くの

消費者に知ってもらう機会を創出しています。

9月19日には、同プロジェクトに参画する各メーカーとJAおきなわとともに沖縄県の玉城デニー知事を訪問し、プロジェクトで共同開発した各商品の紹介を行いました。玉城知事からは、協議会メンバーへ「沖縄県民は子どもの頃からサトウキビや黒糖が生活に深く関わっている。黒糖の深い甘さと香りが全国に届けられる



沖縄県の農家のうち約7割がサトウキビを生産！
そして、黒糖は離島でのみ製造！



協議会メンバーと玉城知事（左から6人目）

ことに感謝する。魅力を広めてほしい」との期待のこもったメッセージが送られました。

10月12、13日は、イオンモール幕張新都心店（千葉県）で販売促進イベント「ニッポンエールまつり」を開催し、「沖縄県産黒糖」を使用した各商品の試飲・試食および販売を行うことで、「ニッポンエールプロジェクト」の取り組みについて認知拡大を図ります。さらに、会場には沖縄県伊江島のご当地キャラクター「タッチゅん」も登場するほか、クイズ大会やじゃんけん大会などのイベントも予定しています。



玉城知事（左）に各社が開発した商品を手渡す全農の齊藤良樹代表理事専務

11月13日には、産地応援の取り組みとして、伊江島の製糖工場で産地交流会を行い、サトウキビ生産者および工場関係者向けに、ニッポンエールプロジェクト協議会より、伊江島産の黒糖を使用した「黒糖カレー」の提供と商品紹介を行います。

また、翌年1月には、沖縄県の離島の学校給食向けにニッポンエールプロジェクト協議会から「黒糖カレー」の食材提供を行う予定です。

全農は、今後も「ニッポンエールプロジェクト協議会」を通じて、産地応援に協力いただけるメーカーおよび販売先とともに、国産農畜産物の消費拡大や生産振興に取り組んでいきます。

ニッポンエールプロジェクト協議会 第4弾「沖縄県産黒糖」商品

「沖縄県産黒糖」
特設ホームページ



伊藤園



沖縄黒糖ごまミルク

不二家



パレットィエ（紅いもタルト）

「沖縄県産黒糖」
紹介動画



山崎製パン



コッペパン黒糖（ミルククリーム）



ぬれ小餅

「沖縄県産黒糖」
使用商品と
8島の黒糖食べ比べセットが
当たるキャンペーン実施中
詳しくはこちら



全国農協食品



沖縄県産黒糖ソース

協同乳業



沖縄黒糖カフェラテ

※久米仙酒造(株)は現在開発中

「令和6年度ミスあきたこまち」7人が決定 秋田米の魅力と生産者の思いを全国へPR

秋田県本部は「令和6年度ミスあきたこまち」を決定し、8月22日に秋田市で委嘱状交付式を行いました。選ばれた7人は、生産者の思いを消費者に届け、「美人を育てる秋田米」をPRします。【秋田県本部】

交付式では、県本部運営委員会の小松忠彦会長が「ミスあきたこまち」に委嘱状と記念品を手渡しました。小松会長は「デビューから40周年を迎えるあきたこまちをはじめ、秋田米に関わるすべての人たちへ感謝する気持ちと思いを胸に、元気で笑顔あふれる活躍を期待しています」と激励しました。

「ミスあきたこまち」を代表して林佑果さんは「あきたこまちデビュー40周年の節目となるこの1年間、秋田米の魅力と生産者の思いを全国の消費者へお届けします」と決意表明しました。

任期は9月1日からの1年間。全国各地で開催される秋田米の販促キャンペーンに参加し、秋田米をPRします。



「ミスあきたこまち」の7人



決意表明する林さん



「ひろしまクロスカントリー大会」に協賛 県産農産物を使用した飲料をランナーに提供

広島県本部は、8月24日に開催された「第25回ひろしまクロスカントリー大会」にメインスポンサーとして協賛し、参加したランナー921人に「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供しました。【広島県本部】

広島県本部は3県の部のスターターを務めたほか、ゴール後の全ランナーに広島県産のハッサクやレモンを使用した「藻塩はっさく水」「藻塩レモン水」を提供しました。当日の最高気温は33度だったこともあり、提供した飲料は水分・塩分補給としてランナーに好評でした。

広島県本部は、今後もスポーツを頑張る人たちを「ひろしまの食」を通じてサポートしていきます。



スタートの合図とともに駆け出すランナー

JA全農の産地直送通販サイト



JAタウン ショップ紹介



JA紀南

和歌山県南部に位置するJA紀南のブランドミカン「天」は、この時期に収穫されるミカンの中から選別された、特に糖度が高いミカンです。

高糖度のミカンを生産するためにマルチ被覆などの工夫をして生産が行われています。さらに光糖酸度センサーを活用することにより、おいしさのばらつきをなくし、高いレベルでの品質の統一に努めています。

10月にお届けするミカンは青みががっているものもありますが、この時期ならではのさわやかな香りをお楽しみください。



紀南みかん「天」(Mサイズ) 3kg
<10月下旬~11月中旬発送>...4570円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の公式
Xはこちら

